

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム アイケアおたる	評価実施年月日	平成20年12月28日
評価実施構成員氏名	八田栄治 木川恭子 高階直子 山崎順子 林 淳子 野島真貴子 小池智子 森脇みさ子 国谷省子		
記録者氏名	八田 栄治	記録年月日	平成21年1月6日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域を対象とした、独自の理念はありません。</p>	<p>○</p>	<p>地域交流するうえで、お茶会や懇談の場を設けていきたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>夜間申し送りや会議の場で理念の復唱を行っている。また、管理者は職員個々と話す機会を設けている。</p>	<p>○</p>	<p>継続し、実践にむけ勉強会など実施したい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時にはしっかり説明しています。また、運営推進会議でも説明し理解をしていただいています。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>管理者、職員は挨拶はしてます。また、人数は少ないですが、ホームに訪れてくれる方もいて、入居者や職員と談話してます。</p>	<p>○</p>	<p>老若男女問わず、気軽に立ち寄りできる環境づくりをしたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域活動として、お祭りやゴミ収集には参加してます。</p>	<p>○</p>	<p>町内会の役員の方とも、入居者や職員が参加できる行事や活動を相談しているところです。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>現在、行なっておりません。</p>	<p>○</p>	<p>地域の老人会の活動がほとんどないため、町内の役員の方とも相談しているところです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>管理者、ケアマネは充分理解してます。職員全員が充分理解できるよう、説明するとともに、評価を生かします。</p>	○	自己評価に対しての分析及び活用に関して、会議や勉強会を通じて理解を深め生かすようにする。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>会議の内容は職員会議などで浸透しています。また、個々の意見は否定することなくできることから生かしています。</p>	○	サービス内容の向上について、個々の意見を大切に生かしたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市介護保険課や市社会福祉協議会、市商工会議所などに様々な相談をさせていただき、意見や指導を取り入れてます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、勉強不足です。</p>	○	必要性を充分理解するよう、研修や勉強会を実施したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>事業所は身体拘束廃止委員会を設置し、虐待や身体拘束がないよう、説明し職員間の共通意識を浸透してます。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約や解約は充分にお説明しており、理解・納得を得ています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満などがあった場合は内部で議論し取り入れてますが、外部者への表わす機会は現在、重要なこと以外はあまりありません。	○	市介護保険課などと連絡・報告を密にする。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回は定期的の手紙で報告してます。また、突発的なことについては、速やかに連絡・報告してます。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満などがあった場合は内部で議論し取り入れてますが、外部者への表わす機会は現在、重要なこと以外はあまりありません。	○	市介護保険課などと連絡・報告を密にする。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り、連絡帳及び会議などでの意見や提案は議論し聞き入れて反映してます。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	出来ています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者の方の不安がらないよう、十分に配慮してます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験に応じて、各研修に参加できるよう、また、勤務中でもトレーニングできるよう、配慮しています。	○	今以上に職員が積極的に研修参加できる環境をつくる。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者、ケアマネはできているが、職員までは現状できていない。	○	職員も他施設など交流の場を設け、質の向上をさせたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	会社幹部や管理者は定期的な面談を実施している。また、職員からの相談には、耳を傾け、働きやすい環境整備に取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は職員の経験や技量を把握したうえで、向上心を持って働けるよう個々に話し合いの場を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	尊厳を重視し、その人らしく過ごせるよう、また、安心・安楽をしていただけるよう、入居者個々と関わっている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の要求及び不安なことについては、初期の段階で十分に聞き入れ、サービス内容に入れたり、職員も十分に配慮して関わっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前からの相談・面談で十分に話しを聞き、必要とするサービスを見極めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時は環境の変化から、本人及び既存の入居者の方にも少なからず影響があるので、その時必要なサービス以外のことは様子、周囲の雰囲気をみながら取り組んでいます。家族の方とも相談させていただいております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者一人ひとりの見極め、生活の役割を持っていただくことで、お互いの必要性や支えあう関係を築いていただいています。	○	職員が行動を共にすることで、利用者の知恵を学んでいます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	些細なことでも、面会時にお話ししたり、困ったときには電話連絡し報告や相談しています。	○	今まで以上に家族との信頼関係を築くよう努めます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	介護計画を意識して、本人と家族と一緒に過ごす時間を多く持っていただけるよう、ご協力をお願いします。	○	本人が安心して、穏かに過ごせるよう支援したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望により馴染みの店で買い物したり、店員と話しをする機会を設けています。また、おやつには懐かしい店の物を出したりしています。	○	今後も希望を叶えられるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常生活での役割を持っていただき、お互いに協力しあう事で支えあっている。	○	職員と一緒に行動することで、何気ない会話の中から入居者同士の和が築けるようにする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も家族より、現在の状況報告など聴いています。また、こちらから訪問して、お話を聴いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、コミュニケーションをとり、言葉や表情から把握しています。また、状況によっては、家族に連絡・相談をします。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の話や家族からの情報をもとに生活歴やかかりつけの病院、馴染みの店、暮らし方など把握し記録をとっています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員が入居者の心身の変化に気づき、安心して暮らせるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を重視し、定期的にアセスメントを含むカンファレンスやモニタリングを行い、介護計画を作成しています。問題が生じた場合は、都度、職員の情報・意見を聴き反映しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎日、個々の記録を記入し、職員間で情報を共有できるように、日々の関わりやケアプランの見直しに役立てています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個々の記録を記入し、職員間で情報を共有できるように、日々の関わりやケアプランの見直しに役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院の送迎や買い物の要望があれば、都度、柔軟に対応している。	○	月1回、音楽療法の方に来ていただいているので、地域高齢者の方にも参加してもらえるように取り組みたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会に寄付をし、お祭り時には、お神輿を玄関前まで来ていただき、入居者全員にお守りを手渡ししてもらってる。また、年2回、消防避難訓練を実施し、消防職員の方にもお話をいただいている。	○	町内行事に多数、参加出来る様に町内会や民生委員の方と話し合う機会を多くもちたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の方のニーズに応じて、男性の方は床屋、女性の方には美容室の方にきていただいている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	あまり協力していない。	○	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、情報や協力を得たい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医には、月2回の内科往診を受けている。また、入居前からのかかりつけ医は通院し受診を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	日常生活に何か変化があった時には相談し細かな助言をいただいている。	○	認知症も多様化してきているので、今後も細かな助言をもらいたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の看護師に助言をもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、本人の状況を医師や看護師、また、相談員と話をしている。入院中はまめに、病院に足を運び、本人や家族と話し、退院に向け支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態の変化があるごとに、医師、看護師、家族と話し合いをし、意向を職員全員に伝え、情報を共有している。	○	現在、終末期における対応方針が定めていないので、方針をきちんと図っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	何か状態が変わるごとに、かかりつけ医に連絡しその人の残された力を最大限生かされるように支援している。	○	本人、家族の意向を大切に、医療機関と連携を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族及び関係機関と十分な話し合いをし、また、情報交換もして住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>普段から、管理者や職員は意識的に注意し、言葉掛けや対応、また、個人情報の取り扱いについて、十分に配慮している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何事も行う前に声掛けや話しをしていて、本人の意志を尊重するよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の生活ペース、リズムで日々過ごしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で服を選ぶ方が多く、服や化粧品、身の回りの必要品を購入する際は、職員は買い物に同行し支援してる。理容・美容はいきつけがない方は2ヶ月に1回、ホームに床屋と美容室の方が来て、本人の希望を取り入れ、安価で支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の好みを把握して、下ごしらえや準備、後片付けなど職員と一緒にすることがあり、職員と入居者の良い関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	起床時はコーヒー、10時は好みの飲み物聴き、また、嚥下の悪い方はトロミをつけ提供している。3時のおやつは好みのものを、手作りや市販品などバラエティに提供している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定期的な同行や本人の訴えや表情を読み取り同行して、極力、失敗しないよう努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴前に体調を見ます。入浴時間も本人の意向を聴くようにしてます。また、入浴中は足元のすべりやふらつきに注意し、様々なお話をしながら入浴していただいています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れない時はお話を聴き、安心していただいてから、おやすみになっていただきます。昼寝もその時の個々の状態をみて臨機応変に対応してます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	手芸、台所仕事、お茶のパック詰め、散歩、ドライブ、買い物など、茶のしみと気晴らしの支援に努めています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理のしっかり出来る方は、希望に応じて買い物に同行し買い物を楽しんでいただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自力歩行、車椅子の方に限らず、散歩やドライブなど戸外に出るよう支援しています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節毎に花の咲く公園や海の見える場所、また、ホテルのレストランなどで外食を楽しんだりしています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日頃、家族と電話をしています。時には手紙や葉書を書いていることもあります。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人など面会にきてます。また、職員も気軽に会話したり、近況報告などしてます。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員全員が理解し身体拘束しないケアしております。	○	今後も研修会や勉強会など積極的に取り組みたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中帯は鍵はかけておりません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は見守り、夜間は2時間毎の巡回で安全に配慮してる。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物類は目のつかない、手の届かないところに保管。薬品、洗剤類なども施設で保管し、湿布など本人管理できる方はしてもらっている。</p>	○	<p>特に、誤飲、誤薬など今後も気をつけたい。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒や誤薬は、定例会議や日々の申し送りで充分注意するよう防止に努めています。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>事故発生時に備え、緊急連絡体制は整ってますが、職員全員が応急手当の訓練は行っていません。</p>	○	<p>応急手当及び初期対応の定期的な訓練を実施したい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防避難訓練は年2回実施してます。また、運営推進会議や日頃から、町内会やご近所、民生委員の方に協力をお願いしてます。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居者の方のカンファレンスは月1回実施しており、起こりうるリスクについても話し合っており、家族にも説明してます。また、本人が不安を抱くことなく対応してます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々、顔色や表情、体調の変化には注意深く観察をしています。また、申し送りや連絡帳で情報を共有しています。毎日、バイタル測定も実施しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は個々の薬の説明書を読み把握しています。また、受診時には受診記録を作成し、特記事項や注意点は職員全員が共有しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	主治医から処方された薬のほかに、水分補給や繊維質の多い食品など工夫しています。身体も動いていただけるよう支援しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は声掛けし、歯磨きをしています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスの良い献立を工夫しています。水分量も個々にチェック表に記載してとっていただくようにしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	手洗い、うがいの励行やトイレや手摺などの消毒を日課業務しています。また、台所回りの消毒や冷蔵庫内の整理整頓も行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具の消毒を行っています。食材は地域の市場(野菜・魚・肉)はご厚意で新鮮なものを提供していただいています。その他も消費期限には特に注意をしております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口付近には手作りの看板があり、ベンチを設置したりして、出入りしやすい環境を工夫しています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音や光、臭いなどは十分に配慮しています。	○	共用空間に癒していただけるような飾りが必要。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関やベランダにベンチを置き、ひとりになれる空間があります。気の合った利用者が過ごせるよう、食卓テーブルやソファの配置も工夫しています。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が居心地良く生活できるよう家族と相談して居室内に荷物を配置していただいています。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室の窓の開閉により、換気しています。温度調節は状況に応じてこまめに行っています。冬場は濡れタオルで乾燥防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリー、手摺、エレベーターの設置をしています。歩行訓練などに役立っています。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々の居室には本人の写真を掲載したり、好きな物を飾ってあるので、混乱や失敗はないです。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダ横には畑を設置しており、花や野菜を栽培しています。入居者の方も栽培や収穫をして楽しんでいます。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 安心・安全・安楽をモットーに会社理念でもある、目配り・気配り・心配りを日々、重視し業務にあたっている。また、入居者はもちろんのこと、家族の要望や意見を聴き、様々な事柄について相談しながら生活を送っています。